



ふらつとChizu

行政と住民をつなぎ、
次世代のまちづくりを考える

人口減少が進む中、次世代のまちづくりを考えるために立ち上げた団体。20〜40代の若者世代が文字通り「ふらつと」集まることのできる場を作る。行政と住民をつなぐ、中間支援の役割として地域おこし協力隊ら有志が昨年結成。町内6地区から若者に声をかけて5回のワークショップを開催。「智頭でやりたいこと」「智頭をどうしたいか」な

ど意見を語り合った。会には、参加者との会話を楽しむ▽最後まで意見を聞く▽否定せず多様な意見を尊重する―といったルールが存在する。代表の小池陽子さんは「本音が出てくる。こういう場が必要だった」と話す。延べ50人近くの参加者が話し合った結果、課題として①担い手がいない②コミュニティの構築③拠点となる施設がない、の3点が上がったという。活動2年目の今年は、出た声を具体化していくために、県外で地域活動の拠点を作った人らを招いた勉強会も重なる。小池代表は「智頭町にどんな場所があったら若者（次世代）が生き生きするのか、前向きに考えていきたい」と話す。



20〜40代の若者が集まり、まちづくりについて自由な意見を出し合うワークショップ

みんなが楽しく主体的に本音を語れ、柔軟でユニークな取り組みをしていきます。次世代のつながりを生み、笑顔の絶えないまちづくりを目指します。

Voice

代表
小池 陽子さん

